

豊洲駅周辺・2～5丁目		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西	
将来イメージ案		※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見 紫字：OH意見	取組（第2回WS意見）
立体的な空間活用等により混雑の緩和や防災性の向上が図られた安全なまち	- 駅とまちがつながり、防災拠点にもなる広場のある安心なまち - 地下やデッキ階など空間を立体的にも活用し、バリアフリーなまち	- 晴海通りの地下通路・空間や地上デッキの設置：スムーズな人流の確保、有事利用を見据えて地下・地上デッキを設置・活用。企業と消費者としての住民がシナジーを出せる交流の実現。駅周辺の人口増加(オフィスワーカー)への対応、対象は2、3丁目 - 豊洲駅の地下空間拡充、空中テラスの整備：豊洲駅地下施設の拡充、併せて地上のまち、地上3階部分に空中テラスを整備し3つの階層を縦に連結する。地上は横丁的空間、空中は広場や歩歩分離されたシームレスな移動空間、災害時の避難空間とする。地下から地上の縦方向の空間づくり：交通の緩和、利便性向上、多目的広場整備等、既設のペDESTリアンデッキの拡張、防災：避難所として北部住民の受け皿。祭りの山：多層的な構造のエリアで様々な人々が集い合う→神輿倉を立てて神輿を鎮座させる「祭り」→縦方向の賑わい「山」 - 豊洲駅とまちをつなぐ広場空間整備：豊洲駅とまちをつなぐ広場空間などの整備、混雑緩和やバリアフリー対応を行う。駅とまちを一体化したまちづくり - 海面上昇を想定した護岸補強工事の推進	- 都営4丁目アパート跡地、4丁目公園を活用した広場づくり：豊洲4丁目商店街がもつ賑わい創出のポテンシャルを活かしながら、居住者や就労者が憩える広場を整備することでシナジー効果による更なる街の賑わい・住みやすい環境を造る。都営アパート跡地エリア～豊洲駅が対象、8号線の延伸→豊洲駅も江東区役所関係の客の増加が想定される - 公共の集会所や公共施設を活用した多世代の学びの場、遊べる空間づくり：お金をかけずに皆が目的を共有できる町を目指す、花を育てる、ゴミ拾いをする、など皆でできるイベント、散歩等の健康で長生きできるイベント、夏祭り・お神輿・水辺のイベント等、家にごもっている人々が外に出て参加できる、繋がることのできるイベント - 豊洲シエルコート商店会の広場活用：豊洲シエルコート広場を活用し、時間帯や曜日を区切って主に子供の居場所をつくる。公共施設・小中学校は施設が充実している(冷暖房等)：地域に開放して活用、退職者等ボランティアが関われるような仕組み
昔ながらの商店街等を活かしつつ、多様な立場の交流や賑わいが生まれるまち	- 様々な人(学生・オフィスワーカー・市場の人等)が集まる・融合できるまち - 昔ながらの商店街や、昭和レトロな雰囲気・飲み屋街を活かした街並み		
高齢化にも対応し、多世代がつながり交流が生まれるまち	- 様々な転入者が、既存の住民と共存して長く住めるようなまち - 住民同士のつながりのあるまち - バリアフリー等にも配慮した、高齢化しても気持ちよく暮らせるまち		

4

豊洲・有明・東雲のオープンスペース・水辺		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西	
将来イメージ案		※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見 紫字：OH意見	取組（第2回WS意見）
平常時のスポーツやイベント、災害時の避難等に水辺や水上交通を活用したまち	- 拡張性が高くなるまち：陸上だけでなく、海上などでも様々なイベント等ができる、水辺と取り囲む道等の活用 - 平時は、クルージングやマリンスポーツができ、有事は、水際や水上スペース（フローティング）を避難場所として生かせる街	- 水域を利用したアミューズメントエリアの創造：エリアに面した施設を利用することに加えて、水域面にマリーナや水上レストラン、水上スタジアム・水族館を設置。東京インナーハーバーPMもイメージ、中央区にも影響する可能性あり：連携する必要、水辺と親しめるようなアクティビティ - 運河一帯の活用：レジャーやスポーツ大会が開催されたり、おしゃれな雰囲気のカフェやレストランが並ぶイベントを開催 - 豊洲埠頭の防災機橋化：豊洲埠頭において、日常的水路の利用、水上交通の教育と整備を行う	
公園やオープンスペースなどの公共空間を自分の居場所として柔軟に活用できるまち	- 一人ひとりが居場所のあるまち、それぞれの欲求を受け入れてくれるまち、家の中にもいるような感覚になれるオープンスペースがあるまち - 環境・共有スペースを、きれいに共有するための意識・まちを大事にする意識を一人ひとりが持てるまち	- ぐるりパークへの多様なサービス提供：民間企業等による様々なサービス提供がある居場所づくりや様々なアクティビティを許容する公園。豊洲は立派な公園があるが、1日を過ごす場所ではない例：アクティビティやいろんな時間を過ごす居場所が少ない、夏場の日差しが厳しい等 - オープンスペースへの居場所づくり、賑わいづくり：稼働可能なテーブルや椅子などを配置し、ヒトの居場所空間づくりを行い、様々な活動やアクティビティを許容、キッチンカー等を配置して更なる賑わいの創出。豊洲・東雲・有明：建物まわり・歩道にゆとりた空間がある、オープンスペース活用はコロナ禍での対応も可能	
回遊性の高い歩行者空間の整備や無電柱化が進み歩いて楽しいまち	- 歩道をつなげるだけでなく、水辺を生かしたアクティビティや運河沿いのイベントに活用 - 住民同士のつながり	- 歩道の回遊性向上：柵で通行止めになっている歩道を通れるようにしたり、歩道を新設、あわせてフリーマーケットなどイベントを開催し運河沿い歩道の活用を進める。4-5丁目の東雲運河側は歩道がつながっておらず、行き来ができない→繋がる車道を通らずに安全に行き来が可能。豊洲3-4丁目は行き来ができる：散歩ぐらいは使えない、1丁目は運河の歩道がない：新設すると豊洲が一巡できる - 無電柱化と歩道整備：豊洲1丁目において、無電柱化と歩道の整備で歩きやすく、周りの調和がとれるまちを目指す	

6

豊洲駅周辺 2～5丁目		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西	
		晴海通りの地下通路・空間や地上デッキの設置 豊洲駅の地下空間拡充、空中テラスの整備 豊洲シエルコート商店会の広場活用 公共の集会所や公共施設を活用した多世代の学びの場、遊べる空間づくり 駅とまちをつなぐ広場空間整備 4丁目アパート跡地、4丁目公園を活用した広場づくり	

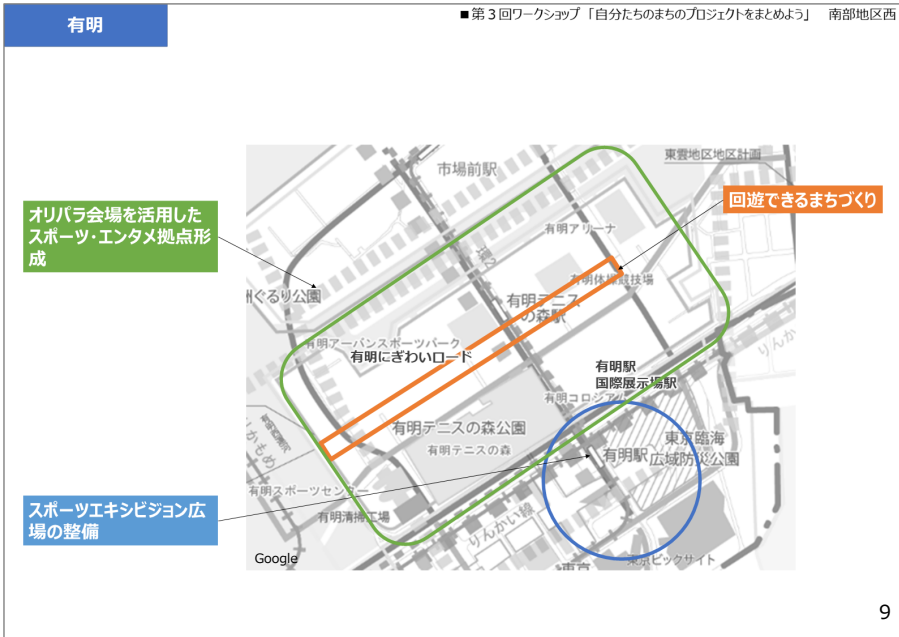
5

豊洲・有明・東雲のオープンスペース・水辺		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西	
		オープンスペースを伴うボツーン（浮桟橋）の設置 水域を利用したアミューズメントエリアの創造 運河一帯の活用 豊洲埠頭の防災機橋化 ぐるりパークへの多様なサービス提供 オープンスペースへの居場所づくり、賑わいづくり 無電柱化と歩道整備 歩道の回遊性向上	

7

■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西		
※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見 紫字：OH意見		
有明	将来イメージ案	将来イメージ（第2回WS意見）
	スポーツ施設の集積を活かし、誰もがスポーツを楽しめるまち	- オリンピックでスポーツエリアが充実：ソフト面でもオリンピックで金メダルが取れる子供・大人が育成できる環境 - 一時的な住民の増加→子供を育てられる、優しいまち、子供や大人、スポーツ等を応援できるまち、スポーツだけでなく、仕事で来ている人向けの堅実なイベント等の充実 - 箱物が多いまちを活かして、子供や初心者が入スポーツの練習をする場所として活用できると、スポーツの観点でよいことになる - オリンピックをきっかけに、「スポーツのまち」として聖地巡礼として人が集まるまちを目指す
	多様な施設を結び快適な歩行空間や交通手段が整備された歩いて楽しいまち	- 神楽坂のような街歩きができる街並み - 陸上交通だと不便な有明へのアクセスの向上：海上交通が整ったまち - 大学が多い、国際展示場等の国際施設を活かし、豊洲から独立して有明で様々なことができるようなまち - 働く場所+住む場所が共存する暮らしやすい場所、居住者が参加しやすいイベントがあるまち
		- スポーツエキシビジョン広場の整備：駅前の広場を一部定期的なスポーツエキシビジョン広場にして、都庁のストリートピアノのように解放する。有明1丁目、空間を活用して連携：人が集まれる仕組みができないか - オリパラ会場を活用したスポーツ・エンタメ拠点形成：東京オリンピック、パラリンピックで大盛り上がりした会場を活用して、地域の子供たちにスポーツの楽しさを知ってもらうイベントを企画 - 回遊できるまちづくり：目的地までに店舗や見学地を点在させ、回遊できるようなまちづくり、ここにしかないような路面店を誘致し、官民協力して街歩きができるような雰囲気づくり

8



9

■第3回 自分のまちのプロジェクトをまとめよう

南部地区西の将来ビジョン案（WS最終案）	
ワークショップを通じ検討した3エリアの地区別将来ビジョンに基づき、南部地区西全体の将来ビジョン案をとりまとめました。ビジョン案は今後、行政と調整し表現を精査する予定です。	
非常時にも対応できる水上交通や水面、空中を含めた立体空間とコミュニケーションの創出 ～ 水辺や水上、地下も含めた広場・歩行空間の活用やスポーツを通して 多様な立場の人々の賑わいやつながりが時空を超えて生まれるまち ～	
エリア	エリア別の将来ビジョン案
豊洲駅周辺・2～5丁目	- 立体的な空間活用等により混雑の緩和や防災性の向上が図られた安全なまち - 昔ながらの商店街等の賑わい等を活かしつつ、多様な立場の交流が生まれるまち - 高齢化にも対応し、多世代がつながり交流が生まれるまち
水辺・オープンスペース	- 平常時のスポーツやイベント、災害時の避難等に水辺や水上交通を活用したまち - 公園やオープンスペースなどの公共空間を自分の居場所として柔軟に活用できるまち - 回遊性の高い歩行者空間の整備や無電柱化が進み歩いて楽しいまち
有明	- スポーツ施設の集積を活かし、誰もがスポーツを楽しめるまち - 多様な施設を結び快適な歩行空間や交通手段が整備された歩いて楽しいまち

1

■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」 南部地区西	
※赤字：オンラインWS当日意見 緑字：オンラインWS事前意見+書面意見 紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加	
南部地区西の将来ビジョン（WS最終案）	
非常時にも対応できる水上交通や水面、空中を含めた立体空間とコミュニケーションの創出 ～ 水辺や水上、地下も含めた広場・歩行空間の活用やスポーツを通して 多様な立場の人々の賑わいやつながりが時空を超えて生まれるまち ～	
エリア	エリア別の将来ビジョン案
豊洲駅周辺・2～5丁目	- 立体的な空間活用等により混雑の緩和や防災性の向上が図られた安全なまち - 昔ながらの商店街等の賑わい等を活かしつつ、多様な立場の交流が生まれるまち - 高齢化にも対応し、多世代がつながり交流が生まれるまち
水辺・オープンスペース	- 平常時のスポーツやイベント、災害時の避難等に水辺や水上交通を活用したまち - 公園やオープンスペースなどの公共空間を自分の居場所として柔軟に活用できるまち - 回遊性の高い歩行者空間の整備や無電柱化が進み歩いて楽しいまち
有明	- スポーツ施設の集積を活かし、誰もがスポーツを楽しめるまち - 多様な施設を結び快適な歩行空間や交通手段が整備された歩いて楽しいまち

2

南部地区西の将来ビジョン案に対する意見		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」	南部地区西
※赤字：オンラインWS当日意見		緑字：オンラインWS事前意見+書面意見	紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加
非常時にも対応できる水上交通や水面、空中を含めた立体空間とコミュニケーションの創出			
～ 水辺や水上、地下も含めた広場・歩行空間の活用やスポーツを通して 多様な立場の人々の賑わいやつながりが 時空を超えて 生まれるまち ～			
カテゴリ	意見		
防災に対応した空間の整備	・ 「水上を含めた立体空間の創出」：「水辺や広場」は、WS内でも議論にあったように、「水上」と「地下」も追加；利用できる土地がないので、新しい発想として水上の活用を入れたい+「空中」も追加できないか？ → 防災の観点から、将来の地球温暖化や水害に備えた空中・水上の利用→立体的な空間の活用、災害時に備えた活用 ・ 「歩行空間の活用」は、同様に、「避難場所の活用」も追加；有事と平時の観点→学校や展示場、スポーツセンター等たまたま使える避難所ではなく、防災に備えた空間を作りつつ他の用途に活用するほうが良い。→高層の建物が多い豊洲等では、非常時に車道避難ができる協定や仕組みが企業等と必要。一方で、高層マンションでは地震時に下層に行きたい人もいることを考慮する必要がある。地域外、高層居住者等の受け入れが課題。次の世代に向けて対策が必要。		
防災・水辺	・ 防災都市という基盤のイメージが薄い。「非常時の防災施設となる」と頭に追加して欲しい；平時時は交流の場、非常時に避難施設に変わる基盤を作るというコンセプト ・ 新たに商売を始めた人への開業支援や挑戦へのサポートを手厚くしてあげること、シャッター通り化は防ぎ、初期費用だけでなくランニングコストやアドバイスを経営的に支えてあげる制度があると良い。また、営業時間外に店舗のキッチンや客席を貸したいお店の情報を共有できる仕組みがあると良い。 ・ 高齢化については、ありとあらゆる場所にベンチが欲しい。高齢者が多く居ようならリアにベンチが少なく、公園にももっとベンチがあっても良いと思う。ベンチを設置することでも人がそこに滞留し、コミュニケーションや賑わいにもつながります。 ・ 今後の地下鉄8号線の延伸に際して、地下空間の活用も考慮して、避難や防災に利用できる通路・広場を考えられるのでは。防災だけの目的ではなく、何かの目的とセットのほうが事業が進みやすい。 ・ 高齢化と商店街の継続を考え、新しい人々の参入ができる仕組みが必要。 ・ ベンチはコミュニケーションの手段になる。ゴミの問題とベンチもセットで考える必要あり。高齢者が休めるスポットにもなる。ベンチがモニュメントになるのでは？（例：読書館）人が集まる場所になり、回遊性も生まれる可能性がある。 ・ 【水辺・オープンスペース】水上交通や水上スポーツなどについては、おそらく機種の施設利用や船の係留などが課題になると思いますが、Webで簡単に利用申請できるようにするとか、書類1枚だけを1箇所に提出すれば申請が完了するとか、利用手続きの簡素化が実現すれば、もっと多くの方から利用されるようになり、利用が活発化すれば水辺の街としての魅力が高まると思います。 ・ 【有明】スポートの街としてのイメージが強まったが、同時に五輪やスポーツ施設に着目するだけでなく、今後この有明や南部地域西地区でスポーツチームやプロチームを育成・支援できる仕組みがあると、もっとスポーツの街として魅力が高まる。地元チームが誕生すれば、それを住民が応援したり、観戦するのも楽しいものひとつになる。 ・ オリピックラガーシーの施設は大きい。人口減少であり、余剰資産になるのではないかと。金を掛けても維持して人が集まるようにするには、人を連泊のために、水上タクシーなど水路や、船を使うために機橋を活用する。防災機橋は、都内144箇所ある施設だが、船舶泊湾になっている。江東区内に船着場はあるが、許可制で船とさせておいて、自由に使える。 ・ 水原のルールをつづ、すればよい。一つの窓口で解決できるようにすべきである。 ・ 小名木川東船場でもヨットの体験会をやったところ、大勢の人が集まった。川の運河の役割に注目し、国交省で運河庁を作ればよいのではないかと。		
防災（自助・互助の視点）	・ 発災時に向けた訓練を地区全域で展開する際に、区で定期的に大規模な防災イベントを実施して頂きたい。（芝浦工業大学で過去に実施） ・ 地区全体で周知知りになることが出来ると良い。 ・ 帰宅困難者は事業者側で対策されているが、住民側の避難誘導や対策が不足している（豊洲1丁目は古い建物が多い）。 ・ 災害時の、住民が担う「自助・互助」の部分強化が必要がある。 ・ 小学校も避難場所、指定されているが、発災時の動きを把握していない。地域の防災拠点として役割を担いたい。 ⇒過去に西小学校で訓練を実施し、対応の改善が計られている（SNSでの情報配信に課題があった） ・ 子どもは学校の外にいるときの防災訓練をしたことが無いため、地域の取組は大事である。 ・ 新旧の居住者の連携、避難時の対応を事前に議論する必要がある。		

3

南部地区西の将来ビジョン案に対する意見		■第3回ワークショップ「自分たちのまちのプロジェクトをまとめよう」	南部地区西
※赤字：オンラインWS当日意見		緑字：オンラインWS事前意見+書面意見	紫字：OH意見 橙文字：WS又はOHを基に事務局追加
非常時にも対応できる水上交通や水面、空中を含めた立体空間とコミュニケーションの創出			
～ 水辺や水上、地下も含めた広場・歩行空間の活用やスポーツを通して 多様な立場の人々の賑わいやつながりが 時空を超えて 生まれるまち ～			
カテゴリ	ご意見		
空間の有効活用	・ 【水辺・オープンスペース】 やっぱり運河周辺の歩道はすべて通れるようにし、つながっていない歩道は新設してほしいです。運河の歩道がつながれば車道を一切横切ることなく安全に各所へアクセスでき、歩行者にとっての利便性向上につながります。また、次世代モビリティや電動キックボードなど新しい乗り物がどんどん登場するなか、運河の歩道でならゆるい規格で乗車できるとか、未来を見据えた有効活用法を見出すべきだと考えます。；遊歩道の有効活用 ・ 駅周辺の防災に関しては、大雨や地震の際にも避難しやすいよう広くて広範囲にわたって盛り込まれた地下通路が欲しい。地下を活用した防災広場をつくり、住民だけでなく通勤者が安全に避難できる場所があるとより良い街になると思います。普段でも駅を利用する人々がそこで待ち合わせできたり、出口のわかりやすい構造にすべき。 ・ 空間の活用：ドローンも使えるのでは。		
多様性	・ 「新旧住民の交流」は、WS内では様々な人の交流が論点だったと思いますので、「新旧」は無して、「多様な立場」で良いような気がします。；企業の土地が多いので、企業や大学も含めて交流をする(住民と企業と交流が重要では) ・ 多世代、国際色豊かな町なので、新旧よりも多様な、な方がうつくしく。オリピックにも関連して、国際的な感覚もこれから重要では。 ・ 「新旧の」について、居住者や商売をされている方に限らず、来訪者やオフィスワーカー、学生さん等がいっしょなので、削除された方が良いと感じます。；上記同様、企業との交流が重要。働く人の立場でも考えたい ・ 将来ビジョン案の言葉は、キーワードが明確で今後具体的な活動、施設構築へ進むことができる案。水辺を活かした地域の連携を模索し、多様な交流が生まれる地域へと向かっていければ地域の魅力も継続して上がり続けると思います。また具体的に、南部地域西地区ならではのスポーツ環境、水上交通、水辺、国際性といった特徴をより伸ばしたがる。防災性も再確認しつつあることができれば、他にはない街になれると考えています。；「多様な」に国際性も含んでいる。水辺を生かした連携、回遊性の向上などを具体的に進めていけるとよいのでは。		
まちのイメージ	・ 子供にとって取組になってほしい。「ふるさと」といったキーワードが入れられないか。人とのつながりだけでなく、時空を超えたつながりを表現したい。→子どもたちが歴史を知ること、町内の環境問題なども考えていけるのでは。 ・ 豊洲公園、豊洲地域、南部西地区なども、桜の木などを植えることで、時空を超えた繋がりをつくることになるのではないかと。		
観光・情報発信	・ 桜を植えたほうが水辺が目立つ。ガイドブックを作ることで、観光客にもPRになる。脱炭素社会に向けた自動車以外の交通手段の整備なども考えられる。 ・ 来街者も笑顔で過ごせるまち。人やモノの情報の活用。コロナ禍でもあるので、個々の過ごし方を情報発信して外部の人へアピールすることもできる。情報発信できる人を大事にすることで、今ある資源を活用できる。→Wi-Fiの整備：商店街の活性化に活用できる。		
運河の魅力	運河側からの景色が魅力。人と運河の関わりのハードルを下げる。		
オリバラの記憶	・ オリバラの経験を子供たちに残したい。 ・ オリバラレガシーの活用、うまくメンテナンスし人が集まるようにすることが大切、そのために水路の活用は有効		
水上交通	・ ビジョンにおける水辺については、人の動きという観点で「水上交通」とする。 ・ 唯一の観光名所であるらば—toに機橋を作り、水上タクシーが自由に使えるとよい。ららぽーと周辺の人はすごい。		
安心安全なまち	・ 水辺を回遊するルートの整備や交通量の多い道路を歩行者（特に子供）が通行する危険性（豊洲橋の下を通るのは怖い）があり、自動車と歩行者の共存が必要。 ・ 堤防が低いとの意見がある（豊洲1〜3丁目など）。 ・ 無電柱化は災害時の安全な避難に重要、無電柱化と合わせたアスファルト舗装の修繕をして頂きたい（運河周辺とユニス館）。		

4